

蚕養神社(こかいじんじゃ)の掛軸

飯能市立博物館 学芸職員 村上 達哉

今回紹介するのは、円泉寺掛軸(市内の円泉寺よりご寄贈いただいた、妙見信仰研究の過程で収集された日本各地の寺社の掛軸)に含まれている蚕養神社(茨城県日立市)の掛軸です。

ここ1年ほどかけて、断続的に蚕神(かいこがみ)のことを考えてきました。先頃は「飯能市域の養蚕信仰(江戸時代後期～明治時代初頭)」(That's きつとす 令和 7(2025)年 6 月)にて、市域で収集された掛軸やおふだから、常陸国(現 茨城県)に信仰の拠点をもつ、蚕影山(こかげさん)信仰と、蚕霊山(さんれいさん・こだまさん)の信仰に関わる宗教者が来訪していた可能性を考えました。蚕養神社も茨城県にあり、蚕影山信仰(蚕影神社：つくば市)・蚕霊山信仰(蚕霊神社：神栖市)に並ぶ養蚕信仰の拠点です。本資料は市域で収集されたものではないのですが、蚕神の図像の一例としてご紹介することとしました。

以前、「蚕神の起源」(That's きつとす 令和 6(2024)年 4 月)で、蚕神のルーツを①記紀神話に登場する神、②馬鳴菩薩、③衣襲明神(絹笠大神 その元は金色姫)の3つに整理しましたが、蚕養神社の蚕神は①記紀神話に登場する神に該当するようです。おそらく、蚕養神社の祭神として挙げられている稚産霊命(わくむすびのみこと)と考えられます。蚕影山と蚕霊山信仰が対象とする蚕神(図2・3)は、どちらも③(金色姫→衣襲明神)に該当する神なので、円泉寺掛軸の中に本資料を見た時には祭神の違いを実際に確認でき嬉しく思いました。

当館には、他にも多くの蚕神のおふだがあります。それらを見ていて強く感じるのは、蚕神の習合(複数の神仏が一つにまとまること)と変容の激しさです。それは凄まじいと言っても良いほどで、蚕神のイメージを形成する女性・馬という概念を介して、容易に結びつき混ざり合います。今年度の特別展は古いおふだをテーマにして開催するのですが、その中で蚕神のおふだ等を可能な限り多く展示し、カオスな蚕神の魅力をお伝えしたいと思います。乞うご期待！

【お知らせ】

飯能市平和都市宣言推進事業「こどもたちの戦争」 7月20日(日曜日)から8月31日(日曜日)まで



図1 蚕養神社の蚕神の絵姿

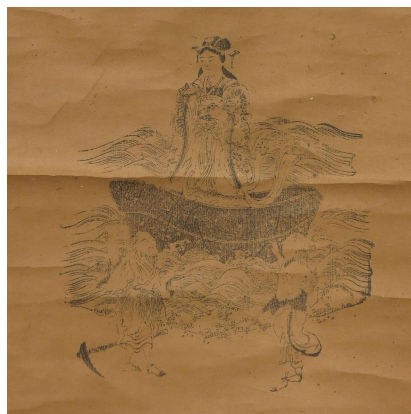


図2 蚕影山大神(「うつぼ船」に乗り、常陸国豊良浦くよらのうらに流れついた金色姫)



図3 蚕霊山星福寺の蚕神(金色姫を元とし、錦絵・刷物等の頒布により図像的変容を遂げた)